

地震発生時、
建物火災の原因 約
電気による出火です

6割は、

震度5強相当の地震を感知し、電気を自動で遮断

カン シン 感震 ブレーカー

設置していますか？



東京都

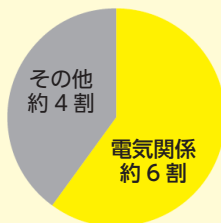
感震ブレーカーを設置して、 出火による被害を防ぎましょう

阪神・淡路大震災や東日本大震災では、出火原因が特定されたもののうち、**約6割**が電気火災でした。*

電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことを言います。

※「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会報告書について（概要）」より

大規模地震時における
火災の発生原因



電気火災の事例

●地震発生直後

地震の揺れで可燃物が電気ストーブに落下・接触し、出火



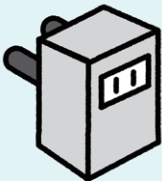
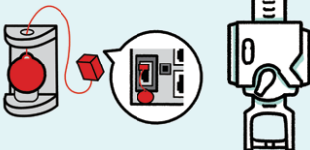
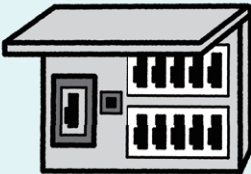
●停電復旧後

停電復旧後、断線した電気コードから出火



\\ さまざまな製品のタイプがあるので、製品ごとの特徴・注意点をご確認のうえ、適切に設置しましょう //

感震ブレーカーの種類と主な特徴

タイプ	コンセント型		簡易型	分電盤型	
	特定機器遮断型	一括遮断型		内蔵型	後付型
イメージ					
遮断範囲	選択した機器のみ	屋内全ての電気供給			
設置工事	不要	製品によって異なる	不要	必要	
遮断までの時間	なし	製品によって異なる		あり（3分程度）	

家電量販店やホームセンター、通販サイトなどで購入できます。

感震ブレーカー設置の際の留意点

- ✓ 停電時に作動する足元灯や懐中電灯等の照明器具を常備し、夜間の照明を確保しましょう。
- ✓ 医療用機器等を設置している場合、停電に対処できるようにバッテリー等を備えましょう。
- ✓ ガス漏れや、屋内外の配線に損傷がないことなどを確認し、安全確保をしたうえで復電しましょう。



詳細は東京くらし防災 p44、東京防災 p82 へ

感震ブレーカーの設置とあわせて実施しましょう

地震による火災の防止に有効な対策

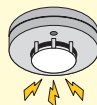


初期消火対策

✓消火器の設置 ✓風呂水の汲み置き など

住宅用火災警報器の設置（10年を目安に本体交換）

機器類の定期的な作動性能の確認や部品などの交換



家具類の転倒・落下・移動防止対策

今後さらに感震ブレーカーの設置を進め、消火器の設置などの初期消火対策も進めることで、地震による火災の被害を約7割減少させることが可能と東京都では推計しています。

地震による火災の被害想定

<現在>

死者数
約 2,500 人

焼失棟数
約 12 万棟

感震ブレーカーの設置や
初期消火対策を確実に
進めた場合

約7割減少

約 800 人
約 4 万棟

※「首都直下地震等による東京の被害想定」（令和4年5月）

出火防止対策や初期消火対策等を実施して、
いざという時に備えましょう。